

二十韻『荻の風』の巻

捌 勝又丘女

櫓一丁水面を渡る荻の風

勝又丘女

雲居の月に響く横笛

窪田浩晃

秋の縁孫と将棋を楽しみて

佐野彰一

ボールで遊ぶ黒ぶちの猫

大池美木

帰り道煮物の香り急ぐ心

鴻巣洋子

腕の時計は父のお下がり

丘

電話口家族の視線背なに受け

浩

同窓会で夢は再び

彰

記念日に待ち合わせする藍浴衣

美

葉柳の下熱き抱擁

洋

ジョギングを規則正しく続け居て

丘

打球音して悲喜のこもごも

浩

いつまでもリニア論争延々と

彰

大道芸を照らす凍月

美

雪下駄を棚の奥より庭先へ

洋

お稲荷さんへ清酒供える

丘

我が町で初めて演ずる市民劇

彰

薄氷踏み児等の歓声

浩

咲き初めを指さしてみる花大樹

美

巢立ちの鳥に託す美(は)しき世

洋

起首 令和五年八月十一日

於 裾野市桃園集会所